

思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫  
～ 協 調 学 習 を 通 して ～

屋久島町立岳南中学校      教諭 木場 綾香

目 次

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
	(1) 国の動向から	1
	(2) 本校の教育目標から	1
	(3) 生徒の実態から	1
3	研究の構想	2
	(1) 研究の仮説	2
	(2) 研究の内容	2
4	研究の実際	2
	(1) 仮説1の取組（協調学習を取り入れた学習活動の充実）	2
	(2) 仮説2の取組（基礎的・基本的な知識及び技能の定着）	7
5	研究のまとめ	8
	(1) 研究の成果	9
	(2) 今後の課題	9
○	別添資料	10
	・ 話し合いカード1枚	
	・ 「知識構成型ジグソー法」を取り入れた授業のワークシート5枚	

【参考文献】

- 「中学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省 平成29年9月）
- 「協調学習とは」（三宅なほみ 東京大学C o R E F 河合塾 編 2016年）
- 「平成27年度版 中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科におけるアクティ  
ブ・ラーニング型授業づくりガイド」（岩手県総合教育センター 平成28年2月）
- 「主体的・協働的な学びを支える教師の挑戦」（高谷哲也 平成28年10月）

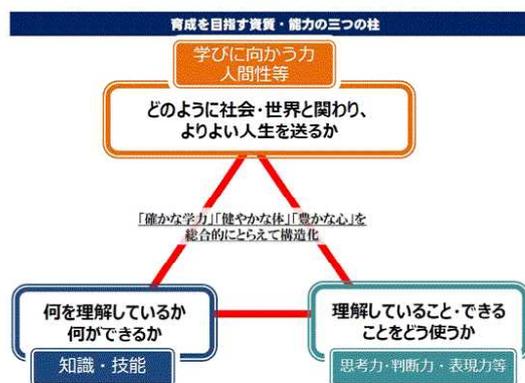
## 1 研究主題

# 思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫 ～ 協調学習を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 国の動向から

持続可能な開発のための教育（ESD）等の考え方も踏まえつつ、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むという理念の更なる具体化を図るため、学校教育を通じて身に付けさせる資質・能力を①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を三つの柱として明確化している。また、次期学習指導要領の改訂では、子供たちが「何を知っているか」だけではなく「知っていることを使ってどのように学ぶか」という学びの過程に着目してその質を高めていくことが重要な視点の一つである。そこで、学び方の中でも学ぶ楽しさや意欲を実感できる協調学習<sup>1</sup>は、子供の思考力・判断力・表現力等を高めることに繋がると捉える。



1) 協調学習とは、東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構が提唱している学習で子供たち一人ひとりが自分たちなりの分かり方をつかみ、まだ分かっていないのはどこかを自分で気づき、その不足分を埋めて理解を深めながら次に知りたいことを自然に見つけていく学びであり、「知識構成型ジグソー法」と呼ばれる具体的な授業型を提唱している。

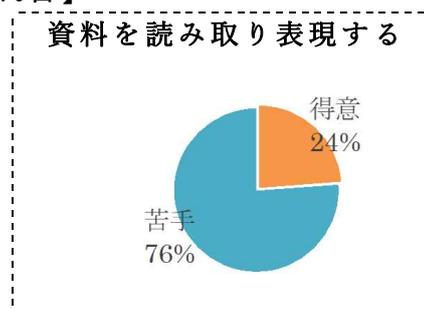
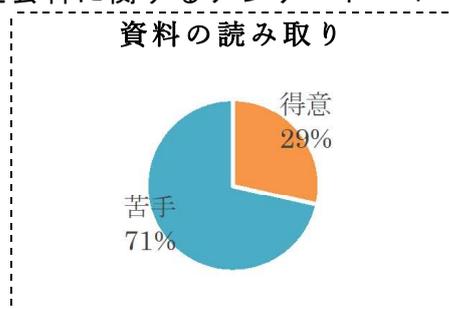
### (2) 本校の教育目標から

本校の今年度の教育目標は「確かな学力と体力を身に付け、共に人間性豊かに生きる生徒を育成する。」であり、重点教育課題の一つに「能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進」を示している。今年度の本校の「こだわりの視点」は「『めあて』『見通し』『まとめ』で指導法改善」と「『反復』と『見届け』で3ポイントアップ」である。社会科においては「発問の工夫」と「個に応じた指導の充実」に取り組んでいる。また基礎的・基本的事項の確実な定着とともに問題解決的学習活動や体験的学習の充実も図っており、①問題解決のための「見通し」の位置付け(既習事項等の確認)、②活用場面の設定(機能・類推・演繹)③言語活動を意識した思考を深めるプロセス(説明・発表、交流・比較、引用・評価)を示しており、社会科の授業においても各分野や単元において、協調学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力等の一層の育成を図り、授業改善を行っている。

### (3) 生徒の実態から

本学級の生徒は、全体的に明るく、ペア学習やグループ学習をする際も自然と互いに相手と向き合い、認め合う雰囲気がある。生徒に対して事前に実施した社会科に関するアンケートによると、領域では歴史的分野の方が得意であると答えた生徒が多く、NRTの結果からもそれがうかがえる。観点別においてもアンケートの結果から、資料から必要な情報を読み取り、それを表現することを苦手と感じている生徒が多く、NRTの結果においても社会的な思考・判断・表現の数値が全国比で90と低い現状である。

【社会科に関するアンケート 1年生21人 9月10日】



NRT領域別集計結果

1	地理的分野	99
2	歴史的分野	117
3	公民的分野	91

NRT観点別集計結果

1	社会的な思考・判断・表現	90
2	資料活用 of 技能	98
3	社会的事象についての知識・理解	115

## 2 研究の構想

### (1) 研究の仮説

仮説1	学習の見通しをもたせ、協調学習を取り入れた学習活動の充実を図れば、思考力・判断力・表現力等が高まるのではないか。
仮説2	主体的な学びになる手立てや、考えの根拠となる基礎的・基本的な知識及び技能の定着と、活用力向上の手立てをとることにより、自信をもって意欲的に学習に取り組む子供を育成することができるのではないか。

### (2) 研究の内容

仮説1	協調学習を取り入れた学習活動の充実
	手立て1 教員の「指導言」(説明・指示・発問・助言)等の工夫 手立て2 学習形態・手法の工夫と協調学習の授業例
仮説2	基礎的・基本的な知識及び技能の定着
	手立て3 予習プリントの作成
	手立て4 自己評価カードによる復習テストの実施と授業の振り返り 手立て5 単元別評価問題や鹿児島学習定着度調査問題の活用

## 3 研究の実際

### (1) 仮説1の取組(協調学習を取り入れた学習活動の充実)

#### ア 教員の「指導言」(説明・指示・発問・助言)等の工夫

生徒の主体的・協働的な学習活動の導入がクローズアップされ、学習形態や手法に注目が向けられているが、生徒たちをそうした学習活動に導くためには、お互いの考えを安心して表現できる「雰囲気づくり」をはじめ、学習内容・活動に関わる「指導言」(説明、指示、発問、助言)をこれまで以上に効果的・効率的に行い、生徒たちを納得させ、活動をコントロールする力が求められる。対話が停滞しているとき、流れそうなとき、まとまりかけたときに教師は揺さぶりのコメントを行い、話合いを浅いまま終わらせるのではなく、意図的に対立場面や多様な視点を引き出し、深い対話へと導くようにする必要がある。

## 【教師に求められる役割】

- (ア) 生徒同士の発言をつなぐこと（他の生徒への橋渡し）
- (イ) 生徒の発言に対し励まし称賛すること
- (ウ) 発言の根拠を聞き出すこと
- (エ) 必要に応じて生徒の発言内容への質問・切り返しをすること
- (オ) 他の生徒たちの思考を深めるきっかけとなる発言を見逃さないこと

## 【指導言の例】

○ 共通	「～と似ているところは？」 「〇〇さんと似ている人は？」
○ 相違	「～との違いは？」 「〇〇さんと違う人は？」
○ 理由・根拠	「どうしてそう思ったの？」 「どこから考えたの？」
○ 焦点化	「ここに注目して考えよう」 「絞って話し合おう」
○ 合成	「～と～を合わせたらどうなるだろう？」
○ 具体化	「例えばどんなものがある？」 「詳しく言うത്？」
○ 一般化	「全体から考えるとどんなことが言えるだろう？」
○ 再考	「もう一度～について考えよう」
○ 広げる	「他の考えはある？」

## イ 学習形態・手法の工夫

これからの社会では、対話や議論を通じて他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。生徒同士の「話し合い」や「教え合い」が学習活動として有効であると確認されている。対話や議論を通して相互に理解や考えを伝え合うことで、より自分の理解や考えを深めると同時に、多様な人々と協働していくことができる人間への成長も期待できる。

「ペア（1対1）」や「グループ（4人程度）」による話し合いでは、「①何について話し合うのか②どのように話し合い、考えをまとめればよいのか」を明確に示す必要がある。そのために生徒たちには話し合いカードを渡し、「話し合い」が機能する手立てをとった。また、学習内容の定着を助ける「教え合い」では事実等を正確に理解し、他者に正確に伝えることを重視し、説明する側（教える側）は他の生徒に説明できるように学習内容をしっかり理解しようと努めることで、学習内容の定着が図られる。説明される側（教えられる側）は説明に反応できるのは自分しかないことから、教員からの説明以上に、積極的に理解しようと努める。説明された内容について、質問させてみることも有効である。

ここで「教え合い」学習の中の協調学習（知識構成型ジグソー法）の授業例を紹介する。

### 【話し合いカード】

○発表や話し合い活動の手順

- (1) 友達に発表するとき  
結論を先に、次に理由をつけて話す。  
わたしの考えは、〇〇です。理由は（なぜなら）〇〇だからです」  
※今まではどうだったか、つないで、いろいろな方向から、もっとないかと考えよう。
- (2) 質問するとき  
・〇〇について詳しく話してくれませんか。  
・〇〇は、どこから考え（分かん）ましたか。
- (3) 比べるとき  
・〇〇さんと～が同じで、～。  
・〇〇さんと考えが違って、～。  
・〇〇と△△を仲間分けすると～。  
・〇〇と△△を比べると～。
- (4) 言い換えるとき  
・〇〇を具体的に（詳しく）言うど～。  
・〇〇を例えると～  
・もし〇〇なら～
- (5) つなげるとき  
・〇〇と△△をつなげると～  
・全体から考えると～  
・〇〇の立場から考えると～、△△の立場から考えると～
- (6) まとめるとき  
・〇〇と△△から、～と言えます。  
・この資料から考えると、～。  
・つまり（このように）〇〇と言えます。

ウ 協調学習（知識構成型ジグソー法）を取り入れた授業例

「知識構成型ジグソー法」（東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構提唱）は学習課題解決において、クラス内で同時に複数の視点から追究活動を行い、視点ごとに担当者を割り当てて取り組み、その後、分かった内容について説明し合う学習形態である。担当した視点について他者に説明できるようになるために、自己の学びが促進される。また、担当外の視点についても、クラスメートからの説明を、教師から受ける説明にも増して、積極的に理解しようと努める姿勢が期待できる。

<p><b>手順 1</b> 学習課題をまずは一人で解いてみる。</p> <p>「<b>アフリカには豊富な資源や農産物があるのに、なぜ経済的に豊かではないのか。</b>」</p> <p><b>手順 2</b> 学習資料のよりよい答えを出すために3つの異なる資料を準備し、配布する。各自で分担して資料を読み込む。</p> <p><b>エキスパート資料</b>          A（鉱産資源：ザンビアはなぜ経済的に豊かではないのか。）          B（農産物：コートジボワールはなぜ経済的に豊かではないのか。）          C（工業：なぜアフリカは工業化（経済成長）が進まないのか。）</p> <p><b>手順 3</b> 同じ資料をもつ者同士が集まり、グループで検討する。個々の生徒は自分に割り当てられた資料について自ら学習し、意見交流しながら資料についての理解を深め、自分の言葉で説明できるよう準備をする。【エキスパート活動】</p> <p><b>手順 4</b> 次に異なる資料を担当したメンバーが1人ずつ集まってグループを作り、エキスパート活動で得た情報を自分の言葉で発表し合い、情報交換して学習する。意見を共有させ、最初の問いに対する答えを作り上げる。【ジグソー活動】</p> <p><b>手順 5</b> ジグソー活動で出てきた答えを教室全体で交流し、異なる考えや表現から学ぶ。【クロストーク】</p> <p><b>手順 6</b> 最後は各自が、もう一度、本時の学習課題の答えを自分で作っていく。</p>	<p><b>手順 1</b> まずは一人で解いてみる。</p> <p><b>手順 2</b> エキスパート活動：グループ内で同じ資料を読んで学習する。</p> <p><b>手順 3</b> ジグソー活動：情報交換して学習する。</p> <p><b>手順 4</b> クロストーク：全員で意見を出し合う。</p> <p><b>手順 5</b> 再び一人で課題に向き合い、自分の答えをだす。</p> <p>ed-ict（第一学習社）のHP引用</p>
--	---

◇ 授業実践例

<b>主 題</b>
「変わる人々の暮らし～資源に頼る経済とその課題～」
<b>主題の考察</b>
アフリカ州は、農産物や豊富な鉱産資源を有しているが、工業化が進まず特定の鉱産資源やプランテーション作物の生産・輸出に頼るモノカルチャー経済となっている国が多く、輸出品の量や価格の変動によって収入（経済）が不安定になりやすいという課題がある。このモノカルチャー経済を強いられている背景にはかつて、先進国による

奴隷貿易や植民地支配によって労働力や資源が奪われたことがあり、今日のアフリカ諸国が低開発地域になった要因の一つとなっている。さらに、独立後も鉱山や農場を外国企業（資本）が経営しその利益の多くが国外に流出し、生産国であるアフリカが得る利益はごく僅かであるという課題がある。資料の読み取りや分析の作業を多く取り入れることで思考力の向上を図るとともに、その結果をグループや学級全体に分かりやすく表現することを通じて、判断力、表現力の向上を図りたい。

**学習課題（授業の柱となる、ジグソー学習で取り組む課題）**

「アフリカには豊富な資源や農産物があるのに、なぜ経済的に豊かではないのか。」

**期待する答え（本時の最後に生徒が上記の学習課題を解決するときに含まれて欲しい要素）**

アフリカは教育などが不十分で政治が不安定であるため工業化が進まず、特定の鉱産資源やプランテーション作物の生産・輸出に頼るモノカルチャー経済となっている国が多く、輸出品の量や価格の変動によって収入（経済）が不安定になりやすい。またヨーロッパ先進国により植民地化されていたアフリカは鉱山や農場を外国企業（資本）が経営し、その利益の多くが国外に流出するからである。

**エキスパートごとの課題**

- 資料 A（鉱産資源：ザンビアはなぜ経済的に豊かではないのか。）
- 資料 B（農産物：コートジボワールはなぜ経済的に豊かではないのか。）
- 資料 C（工業：なぜアフリカは工業化（経済成長）が進まないのか。）

◇ **本時の学習と前後の授業のつながり**

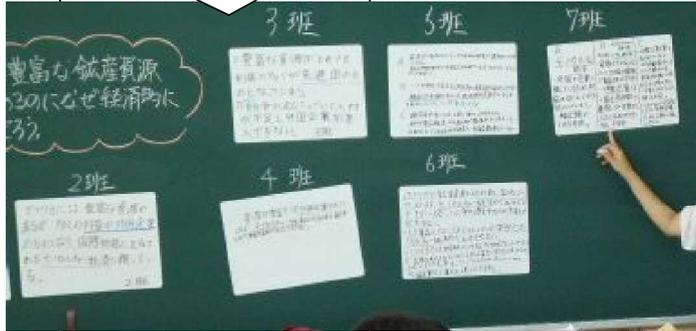
時 間	学習内容と学習活動
第 1 時	アフリカを構成する主な国々の位置や数，人口密度，文化を読み取る。
第 2 時	アフリカの国々の歴史（植民地）と現代につながる課題について理解する。
第 3 時	アフリカの農業や鉱産資源，輸出の特色を理解する。
第 4 時 変わる人々の暮らし (1/2)	<p>「アフリカには豊富な資源や農産物があるのに、なぜ経済的に豊かではないのか。」という学習課題を既に知っている知識を使い、個人で考える。-----<b>手順 1</b></p> <p>次にその問いを解くのに必要な資料を配布し、受け取った資料を個人で読み取る。-----<b>手順 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 A（鉱産資源：ザンビアはなぜ経済的に豊かではないのか。）</li> <li>・ 資料 B（農産物：コートジボワールはなぜ経済的に豊かではないのか。）</li> <li>・ 資料 C（工業：なぜアフリカは工業化（経済成長）が進まないのか。）</li> </ul>
第 5 時 (本時) (2/2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ資料を読み合うグループを作り、その資料に書かれた内容を話し合い、理解を深める。-----<b>手順 3</b></li> <li>・ 違う資料を読んだ人が一人ずついる新しいグループで発表し合う。自分の資料について説明し、他の資料についての説明を聞き、自分の資料と関連付け、学習課題の答えをグループで作り出す。-----<b>手順 4</b></li> <li>・ 答えが出たら、クラスで発表し、自分なりのまとめ方を吟味しながら表現の仕方を見つける。-----<b>手順 5</b></li> <li>・ はじめに立てた学習課題に再び向き合い、最後は一人で問いに対する答えを記述する。-----<b>手順 6</b></li> </ul>
第 6 時	フェアトレードやアフリカ連合（AU）や先進国による国際支援の現状を理解し、アフリカが抱える諸問題への解決方法を考える。

◇ 本時の実際

過程	学習問題・主な発問	学習活動・内容	指導上の留意点
つかむ  見通す	<p>〈導入〉5分</p> <p>○ 前時から本時にかけての学習課題を確認しよう。</p> <div data-bbox="252 456 533 651" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アフリカには豊富な資源や農産物があるのに、なぜ経済的に豊かでないのだろう。</p> </div>	<p>1 前時から本時にかけての学習課題を確認する。</p> <p>2 前時の学習内容や自分が担当した資料を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料A（鉱産資源）</li> <li>・資料B（農産物）</li> <li>・資料C（工業化）</li> </ul>	<p>1 2時間にわたる学習課題であることを確認する。</p> <p>2 個別に分担した資料を持ってきているか、きちんと読み取り、整理しているか確認する。</p>
練り合う	<p>〈展開〉35分</p> <p>○ 同じ資料を担当した生徒同士で集まり、意見交流しながら資料についての理解を深めていこう。</p> <div data-bbox="172 1039 512 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料Bのエキスパート</p> </div> <div data-bbox="240 1263 580 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料Cのエキスパート</p> </div>	<p>3 <b>エキスパート活動</b>（7人×3グループ）</p> <p>同じ資料を担当した生徒同士で集まり、意見交流しながら、自分に割り当てられた資料について自ら学習し、自分の言葉で説明できるよう準備をする。</p> 	<p>3 各個人にエキスパートとしての責任をもたせる。他者の意見に対し、疑問に思ったことは質問するなどして自分の理解を深めるよう声掛けを行う。</p>
まとめる	<p>○ エキスパート活動で整理した内容を発表し合い、それを基に本時の学習課題に対する解答をグループでまとめよう。</p> <div data-bbox="304 1615 660 1951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>	<p>4 <b>ジグソー活動</b>（3人×7グループ）</p> <p>異なる資料を担当した生徒同士が1人ずつ集まってグループを作り、エキスパート活動で得た情報を自分の言葉で発表し合い、視点を共有させ、最初の学習課題に対する答えを作り上げる。</p> <div data-bbox="831 1666 1353 1935" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>	<p>4 他のエキスパートからの説明を全て記録するのではなく、キーワードでメモさせる。班ごとにホワイトボードに記入させるときはキーワードやキーフレーズとする。</p>

グループごとにホワイトボードに記入

学級全体で交流し,異なる考えや表現を学ぶ。



深める

○ 本時の学習課題に対する答えをグループごとに発表し,意見を学級全体で共有しよう。

5 クロストーク  
ジグソー活動で出てきた答えを教室全体で交流し,異なる考えや表現から学ぶ。

5 自分たちの考えとの相違点についてメモをするように指導する。今回学んだ内容が一部の特別な国の問題ではなく,かつて植民地であった多くの発展途上国に見られることを理解させる。

【目指す】アフリカは教育などが不十分で政治も不安定であるため工業化が進まず,特定の鉱産資源やプランテーション作物の生産・輸出に頼るモノカルチャー経済となっている国が多く,輸出品の量や価格の変動によって収入(経済)が不安定になりやすい。またヨーロッパ先進国により植民地化された歴史をもつアフリカは鉱山や農場を外国企業(資本)が経営し,その利益の多くが国外に流出するため,アフリカは豊富な鉱産資源や農産物があるのに,経済的に豊かでない。

つなぐ

〈終末〉10分  
◎ ジグソー活動やクロストークを基に,学習課題に対する問いの答えを自分なりにまとめよう。

6 本時の学習を振り返り,自分の考えをまとめる。  
7 次時の予告

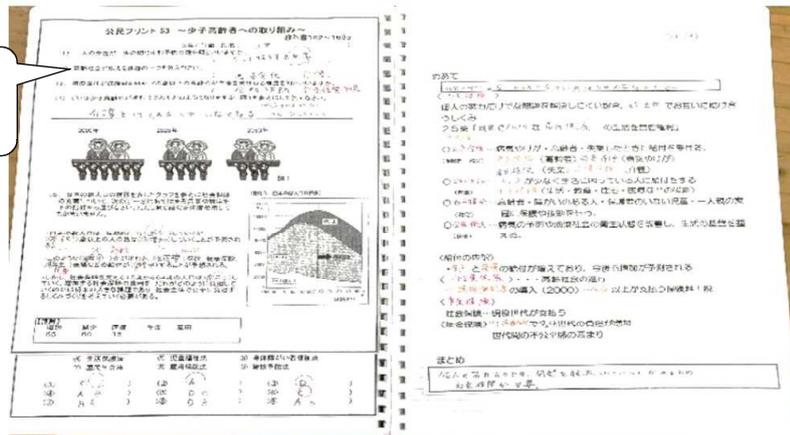
6 本時の学習のまとめを行うとともに,更に学びたい問いや疑問を記入させる。

(2) 仮説2の取組 (基礎的・基本的な知識及び技能の定着)

ア 予習プリントの作成

基礎的・基本的な知識及び技能の定着には,家庭学習を視野に入れた取組が必要である。そこで,授業との関連を図り,次時への見通しをもたせるためのものや,生徒の学習意欲を高めるため,視覚に訴える内容になるように工夫した予習プリントを毎時間作成し,取り組ませている。

左側に予習プリント



右側に板書やワークシート



## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、指導言を工夫したり、発表や話し合い活動の手順を示したりするなど、協調学習に取り組んだ。実践前に比べ、実践後では、考えや意見を交流し、他の人の意見を取り入れ、自分の考えを深めることができるようになり、他の国や地域と比較・関連して総合的に考察することができるようになった。

また、発表においても「～だと思えます。なぜなら～だからです。」というように発表ができるようになった生徒が増えた。さらに、「同じ意見ですが、補足して説明します。」や「異なる立場です。～について詳しく説明をしてください。」など、批判的な思考をもったり、疑問をもったりする様子や、お互いの考えを伝え合い、自分や集団の考えを広げたり、深めたりする様子が見られるようになった。

「知識構成型ジグソー法」の授業における学習では、学級全員がエキスパート活動やジグソー活動に積極的に参加していた。特に、各エキスパート活動がジグソー活動のグループに一人しかいないという責任感から、普段あまり目立たない生徒が発言する場面が多く見受けられる。授業前（9月24日）と授業後（9月27日）で生徒の学習課題に対する答えを比較すると、もともと正確な知識をもっているか否かにかかわらず、どの生徒も授業前よりも答えの内容が充実していた。論理的な思考や批判的思考を促したり、疑問をもつことを推奨したりすることができたと言える。

考えの根拠となる基礎的・基本的な知識及び技能の定着についても1月に行われた鹿児島学習定着度調査では「基礎・基本」に関する問題の通過率81.7%、「思考・表現」に関する問題の通過率81.0%という結果であった。基礎的・基本的な知識及び技能が定着し、一人一人の課題解決に向かおうとする学習意欲を高めていくことや色々な考えを統合しながら納得して（自信をもって）自分の答えを導き出すことができるようになった生徒が増えたと考える。

### (2) 今後の課題

協調学習を通して思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫について研究してきた。学習課題とゴールの設定が浅いと、それぞれのエキスパートを伝え合っ、それを並べたら答えが書けるだけの学習になってしまう。学習課題の設定については、質が高まるよう内容の分析だけでなく、指導方法との関連で導く必要があるが、具体的な手順として明確になっていないため、今後この点について研究を進める必要がある。

社会科 アフリカ州 ワークシート

1年 第 1 学期

これから、アフリカ州についての学習を行います。学習後のアフリカ州に関する学習課題について比較しましょう。

学習前：アフリカには資源の豊富や特徴があるのに、なぜ経済的に豊かでないのだろう。  
(記入日： 月 日)

授業前（9月24日）

- ・ヨーロッパの植民地だから
- ・利益の多くが外国に行くから

学習後：アフリカには豊富な資源や特徴があるのに、なぜ経済的に豊かでないのだろう。  
(記入日： 月 日)

授業後（9月27日）

3つの資料から得られた視点を取り入れて記述している。